

課題改善カリキュラム(外国語活動・英語部会)

	課題	手立て・具体例
低・中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・時間数が少なく積み重ねがなくなってしまう。 ・ゲームのルールが理解できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1回の授業の中での振り返りを大切にする。(ALTの先生と発話してから退出する。授業のまとめの時に必ず振り返りをする。) ・教室掲示などで日常の中でも英語にふれられるようにする。(日直が曜日をみんなに質問する。給食や掃除中に英語の曲を流す。) ・授業時数が多い学校は、授業時期をかため、重点的に指導する。授業時数が少ない学校は、児童の興味関心を持続させるために学期に一回などちりばめて行う。 ・絵本を活用し、自然と言葉に慣れ親しませる。 ・デモンストレーションを何度も見させて発話やゲームに慣れさせ、安心感を与える。(ALTと先生 ALTと児童 児童と児童) ・児童に親しみのあるゲームを扱う。(ピンゴ フルーツバスケット もうじゅう狩りに行こう)
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動が得意な児童と苦手と感じている児童の差が開いてくる。 ・恥ずかしさや自信のなさから、積極的に活動できない。 ・決められたことは言えるが、学習してきたことを生かして発話できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを活用し、繰り返し発話させることで、自信をもって言えるようにする。 ・ゲームのルールを少しずつ変えていき、児童が飽きないような工夫をする。(キーワードゲーム、ミッシングゲーム) ・得意な児童にはデモンストレーション等でボランティアとして活躍できる場を作る。 ・グループ活動を必ず取り入れ、児童同士で教え合いができるようにすることで、苦手な児童が不安にならないようにする。 ・「聞く」ということに重点を置き、何度も英語を聞いて慣れさせ、少しずつ自信につなげたり、知的好奇心が向上したりする。(ALTのsmall talk) ・英語ルームの活用、ALTとの学習を通していつもと違う雰囲気を作り、気持ちを高める。また間違えても温かく受け止められる学級の雰囲気作りを行う。 ・褒め言葉をたくさん入れる。(Good job. Nice. Excellent .Wonderful.) ・活動の様子を見て途中で止め、言葉の再確認を行うことで、安心して活動に取り組むことができる。 ・挙手して発表した児童だけでなく、必ず全員で発話する機会を作る。 ・相手が言ったことが分からなかった場合、聞き流さず聞き返すようにさせる。 ・ジェスチャーや表情など言葉によらない様々なコミュニケーションに触れさせる。 ・選択の要素を入れ、自分の思いを伝えやすい環境作りを行う。 ・発問を工夫し、考えさせるようにする。(授業始まりの挨拶では、決まった挨拶だけでなく、バリエーションを増やして発問するようにする。What day is it today?→What day is it tomorrow?) ・インタビューの際に、ワークシートを持ち歩かず記憶させ、自席に戻って記録させることで、学習したことを使って自分の言葉で伝え合わせる。 ・インタビュー活動など友達とのやりとりを行うときには、「Hello””Bye”などの挨拶を入れるよう声をかけ、自然な会話になるようにする。
中学校1年	<ul style="list-style-type: none"> ・発言する生徒が決まっている。 ・発言した内容がしっかりと定着していない場面が見られる。 ・他の生徒の発表に対して、興味・関心が薄れてしまう場面がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動に、ペアワークを必ず入れ、全員が発言できるようにする。(「英語の挨拶」や「友達のことを知ろう」He/She likes～) ・スモールステップを取り入れ、スパイラルに学習させる。段階に応じて、言語材料を変えながら、ターゲットセンテンスがしっかりと定着するような活動を行う。(「だれがどのスポーツを」 Does he/she～?) ・動機づけを高めながら持続させ、ワークシートや評価シートの工夫(自己、他己)を行う。例えば、他の生徒の発表を聞きながら、メモを取りそのメモをもとに英作文を作成する。(「あなたはエスパー」What is this? 人気調査What~do you like~?)
中学校2年	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に英語を発話する場面が少なくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアワークやグループワークを継続して行い、4技能を統合させた授業を工夫する。また、インプットに偏らず、アウトプットの機会を毎回の授業に短時間でも組み込む。(「Ice breaker」Find someone who～?)
中学校3年	<ul style="list-style-type: none"> ・学力や意欲の幅が広がっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎をベースにした活動を主に設定し、+αとして発展的な授業内容を毎時間準備する。また、4技能の様々な組み合わせを取り入れ、活動の幅を広げる。(例：2技能：読むこと、書くこと、3技能：聞くこと、話すこと、書くこと)

